

法覚寺通信

第20号

2025年10月
真宗大谷派
若松山 法覚寺
第6世住職
吉武 文法(代表役員)
〒049-4752
せたな町北檜山区若松479
電話 0137-85-1455

報恩講から始めよう！

来る十一月の五日・六日に法覚寺報恩講を
厳修します。皆様是非ともお参りください。

先日、若手僧侶仲間の勉強会で「宗教は
必要なのか？」という話題になりました。
参加者の一人が「生きていくのに必要ではな
いけれど、宗教でないと満たされないもの
がある」という言葉を紹介してくれました。

私たちが生きていくのに必要なのは、まず
は体の栄養です。つまり食べ物であり、現代で
あればそのために働くこと、そしてお金が
必要です。しかし、毎日働いているだけでは
たとえ食に困らなくともきつと私たちは満

たされないでしょう。次に必要なのは心の
栄養です。すなわち文化・芸術・趣味など。他者
との交流もそうでしょう。それらはきつと私
たちの心に生きがいや喜びを感じさせてく
れます。

では、体と心が満たされたならば私たちは
本当に満足でしょうか。ここからはおそく、
「そつだ」という人と、「そつでもない」とい
う人に別れるのかもしれない。後者の人に
宗教の門が開かれるのではないのでしょうか。
満足に生きてたら満足に死んでいけるのかと
いう問題があります。生きることだけを考
えるならば体と心が満たされるならば何の
不満もないはず。でも人間はその自分が
死んでいくことを知っている生き物です。で

すからどんなに満たされてもいっかだ薄らと
虚しさを感じている。渴きを覚える。その存在
の事実が宗教を要求するのでしよう。
真宗門徒の一年は報恩講に始まり報恩講に
終わると言われます。ですから「一年の計は
報恩講にあり」です。

この報恩講からお寺参りを始めてみませ
んか？あなたの存在が要求するもの。本当に生
きて本当に死んでいけるものに浄土真宗の
お念仏の教えは応えてくれると思います。



報恩講では親鸞聖人の生涯が記された『御伝鈔』という書を拝読
したのですが、コロナ以降日程の短縮等の事情で法覚寺ではと
りやめてしまいました。儀式や日程内容は変わりつつも、親鸞聖
人の生涯を通して教えに触れることは継承していきたいです。

エアコン設置完了

せっちゃんりよう



「報告が遅れましたが大広間と遺族控え室（2階の一室）に井馬商店の施工によりエアコンが設置されました。今夏より稼働しております。これから寒くなる季節ですが、来年度以降も毎年猛暑が訪れることが予想されますので、葬儀会場としてご利用いただく際には快適にお過ごしいただけると思います。」

また、お寺を会場として法事を行う場合、通常は本堂にてお勤めしますが、夏場におおひろま大広間をエアコンで涼しくして法事を勤めることも可能です。「ご希望があればご相談ください。」

※冷暖房使用時の会場使用料を改定します

第2組前期教習の休止と新規事業の実施について

だい そ ぜん ききようしゅう きゅうし しんき じぎょう じっし

これまで第2組（旧松山管内の真宗大谷派寺院グループ）では「推進員」という資格を取得するための前期・後期教習という研修会を開催してきましたが、近年参加者の減少等の理由により、今後は開催を休止することになりました。再開は未定です。法覚寺のご門徒の中でも、前期のみ修了したけど、後期（本山研修）には行っていない方もいます。また、もう後期まで終えたけどもう一回参加してみたいという声も少なからずあります。他寺院と連携して後期教習上山を実施することは可能かもしれませんが、もしご希望がありましたら住職までご相談ください。

第2組では今後、よりコンパクトな日程の「聞法の集い」という事業を実施します。地域や所属寺の枠を越えて、様々な人と一緒に教えを聞き、語り合うことはとても実りあることだと思えますので同封のチラシをご参照いただき、住職まで申込ください。

記念旅行申込最終締切り

きねんりようこうもうしこみさいしゅうしめき

ほうかくじかいぎょう ねんきねんじぎょう
法覚寺開教100年記念事業として2027年3月に実施する京都・会津若松への旅行について、申込の最終締切りは12月20日です。飛行機の仮押さえなどありますので早めにお申込ください！よろしくお願い致します。

今号のいっぽ

ほうおんこう ほう おん むく ぶつじ
報恩講とは、恩に報いる仏事です。すが、その前に、恩を報せる仏事でもあります。知らない恩には報いることもできません。まずは聞いて確かめる。その時、すでに届いていたご恩に気づくのでしよう。

住職